行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所　村上研究室

組織の構造と発展，ひとつのケース

西里静彦

行動計量学会は各地の沢山の組織に属する人々の集まりで，各組織内では成功組のメンバーからなるに違いない。自分もそうであろうと一人よがりに自負していたこともあったが今はそうではない。

トロントから見てオンタリオ湖の対岸にあるロッチェスターの有名な大学では先ず数学科が解体され続いて統計学科が閉鎖された。トロントでは私の長年いた計量心理学を中心とする学科が4年前に終止符を打たれた。日本に比べて何事もドライに決断を下す北米では個人の権利を主張するところでもある。従って大学などでは教官の出来が悪いといって解雇しようとすると裁判沙汰になって時間がかかるし，経済的にも分が合わない。更に終身雇用のテニュアがある。

そこで組織の再編成，つまりリストラに採用されたのが経済的理由と組織内のリダンダンシィ（冗長性）である。経済状態が悪くなって或る部門を閉鎖すると，そこに属する人は例えテニュアをもっていても首になり，これには労組も何も云えない。問題なのは閉鎖を決める理由である。4年前に閉鎖となった私の学科はかつては20人の計量心理学の専門家を擁した。当時は同じテーマに二，三人の共同研究者がおり，活気あるチームワークが見られ，論文多数出版。学生も参加した。が，どうであろう。リダンダンシィの採用で同じような研究をしている若手の研究者が徐々に姿を消し，共同研究，論文数が減少，若手の養成ができず学科閉鎖を招いてしまった。その時点で大量の整理，今は計量心理学関係が4人，平均年齢は60歳くらいであろう。それぞれ全く違ったことをしているので，学問上の話しあいはなく会った時には天気，野球，ゴルフなどの話に終わってしまう。学問上の興味で集まるのではなく野球の話で集まるのである。

私は長年全く反対のことを主張してきた。つまり組織内にリダンダンシィを増やせということである。二つか三つの各領域に三人か四人の専門家を配置すれば必ずやその組織はそれらの領域で名声をはせるようになるであろうと思う。各グループで研究討論会がもたれ，名声をしたって学生も集まり，ひいては次の世代を荷う若い研究者の養成にも大きな成果を上げることにもなる。この大学はこの方面が強いということだけではなぜ満足できないのか。私はこの様なことを十数年も云い続けているので今は誰も相手にしてくれない。

しかし，大学であれ学会であれ，リダンダンシィは潤滑油であり生命源ではないだろうか。リダンダンシィが一切ない文学など有り得ないであろうし，例えあっても無味乾燥そうであろう。組織に関しても同じであろう。だから無視されても自分の主張を曲げない所以である。

（にしさと しずひこ，トロント大学）

日本行動計量学会主催
第2回「春の合宿セミナー」のご案内（第一報）

標記セミナーは，心理学・社会学・教育学など主に社会科学を専攻する大学生・大学院生・研究者，そしてより広く統計ユーザーを対象に，統計的手法を分かり易く教える勉強会です。昨年は千葉検見川で開催され１００名を越える参加者を得，大変好評でした。今年は下記の要領で開催いたしますのでふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

日程　平成11年3月29日(月)～31日(水)
場所　大阪大学人間科学部（吹田キャンパス）
東館106号室，107号室，207号室（ユメンヌホール）。会場までの案内図は次のurlを参照してください
http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~kano/map/index.html
定員　１００名（限定）
運営委員長　岡太彬訓（立教大学社会学部 okada@rikkyo.ac.jp)
企画責任者　狩野　裕（大阪大学人間科学部 kano@hus.osaka-u.ac.jp)

★参加費

日本行動計量学	会員	非会員
大学生・大学院生	2,000円	2,000円
大学教員など	3,000円	5,000円
民間企業など	5,000円	7,000円

（参加費領収書を発行します）

★宿 泊
「合宿セミナー」と称しながら近くに合宿所がありません。最寄りのホテル「大阪サンパレス」を用意しておりますので，宿泊を希望される方は狩野までお申し込みください。一泊７０００円前後です（税・サ込）。なお，大学生・大学院生の参加者には宿泊補助を致します。補助額は一泊２５００円の予定です。「大阪サンパレス」の情報は以下のurlまで：
http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~kano/map/hotel/index.html

★参加申し込み
申込先：狩野宛 emailまたは faxでお申し込みください。
kano@hus.osaka-u.ac.jp
06-6879-8052(Phone/Fax)

締　切：平成11年3月12日
申し込みフォーマット例
氏名：大阪浪速
所属：南河内大学助手（or D2，B4，or 学振研究員 など）
行動計量学会員である（or ない）
連絡先：naniwa@skawachi-u.ac.jp
参加予定日：3/29,3/30,3/31
宿泊予定日：3/29,3/30（大阪サンパレス）

氏名：通天閣美代
所属：たこ焼き鋳造（株）
行動計量学会員でない（or ある）
連絡先：mitai@tako.co.jp
参加予定日：3/29,3/30
宿泊予定日：宿泊は自分でアレンジします（or 宿泊しません）

★その他
合宿セミナーでは，勉強と同時に「懇親」も重要なキーワードです。連日懇親会をもちますので，こちらの方へも奮ってご参加ください（実費負担，懇親会のみの参加も可）

★講義タイトルと講師は以下のとおりです。詳しいプログラムは次のurlでご覧頂けます。
http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~kano/seminar/gasshuku/index.html

講義は２つ並行して行います。どちらにでも参加できます。部分的な参加も可

講義タイトル・講師一覧

・多変量解析とは何か その行動科学への適用を中心として
（柳井晴夫，大学入試センター教授）
・私ならこう教える基礎統計 1
（永田靖，岡山大学教授）
・私ならこう教える基礎統計 2
（森敏昭，広島大学教授）
・私ならこう教える基礎統計 3
（岩本健良，金沢大学助教授）
・回帰分析とニューラルネット
（前川眞一，大学入試センター助教授）
・Web Technology 概論－研究への有効活用を目指して
（三浦麻子，大阪大学助手）
・ミッシングのあるデータの分析
（岩崎学，成蹊大学教授）

・JavaScriptによる統計解析
　（吉田光雄，大阪大学教授）
・数量化理論入門
　（土屋隆裕，統計数理研究所助手）
・データマイニングとは
　（岩崎学，成蹊大学教授）
・分散分析と反復測定データの分析
　（千野直仁，愛知学院大学教授）
・因子分析における変数選択
　（原田章，大阪大学助手）
・多次元尺度法とクラスター分析
　（岡太彬訓，立教大学教授）
・社会調査と社会調査士
　（川端亮，大阪大学助教授）
・プログラム出展・デモ（予定）
　（SAS，S-PLUS SPSS，Statistica）
・あなたの疑問・質問，著者がその場で答えます
　講師の出版した本に関する質問を受け付けるコーナー

★「あなたの疑問・質問，著者がその場で答えます」では，あなたの質問をお待ちしております。著者が肉声で答えます。質問も狩野までお寄せください。よろしくお願いします。

平成10年度第4回理事会議事録

日　時：平成10年11月16日　PM6:30～8:30
場　所：立教大学
出席者：池田　央，市川伸一，市川雅教，江川　清，久保武士，林　文，原純輔，村上征勝，柳井晴夫，柳原良造，山岡和枝
議　題
1．第26回大会の報告
・池田委員長より第26回大会の参加者等について，以下の報告があった。
・参加者326名（正会員228，準会員18，非会員80）
・不確定な部分はあるが，現在のところ収入は約300万，支出は約230万。
2．第27回大会（平成11年度）について
・柳井理事長より，順調に進んでいるようであるとの報告があった。
3．学会賞選考委員会委員長の選出
・繁桝理事を選考委員長に推薦したい旨の提案があり，了承された。
4．2001年サイコメトリック国際会議の日本開催について
・柳井理事長より2001年サイコメトリック国際会議の日本開催について検討委員会での検討状況について説明があった後，開催の是非について意見が交換された。この中で行動計量学会主催あるいは共催という型ではなく，サイコメトリックの会員を中心に小規模で行ったらどうかという意見が出されたが，企画，予算等も含め検討委員会で再検討した結果を次回の理事会に提出してもらい，行動計量学会主催あるいは共催で開催するか否かを審議することとなった。
5．各種委員会報告
・久保和文誌編集委員長より25巻1号を発刊したとの報告と25巻2号の編集状況について説明があった。
・山岡運営委員会委員より，12月1日に発行予定の会報は現在準備中であるが多少送付が遅れる可能性があること，また春の合宿セミナーは3月29日（月）～31日（水）大阪大学人間科学部で開催すべく計画中であるとの報告があった。
6．その他
・事務局より会員の移動状況について以下のような報告があった。
8月正会員入会15名，退会1名，準会員入会2名
9月正会員入会　9名，退会4名

お知らせ

昨年の第26回行動計量学会総会で，会則の変更が承認されたのに伴い，学部および大学院，あるいはこれらに相当する者に属する者は準会員扱いとなりました。そのため，博士課程在籍の場合には会費が5,000円となります。該当する方は会費納入の際にその旨を用紙に記入し，自己申告して下さい。

行動計量学のためのインターネット(9) 社会調査のデータベース

立教大学社会学部産業関係学科 安田 雪

我が国においても，社会調査データの公開が，急速に進み始めた。調査の個票データやコードブックなどを収集・提供する，オンラインの社会調査データベースについての新しい動きを報告しよう。まずは，前号でもご報告した，「社会・意識調査データベース(SORD)プロジェクト」http://postpc.sgu.ac.jp/SOCIO/sordhp である。

SORDプロジェクトでは，調査データの蓄積が順調に進行している。現在，10種類以上の調査データが協力者によって提供されている。素データが提供されている調査の例をいくつかあげてみよう。

「職業と生活に関する意識調査」（岩本健好提供：1991.11 実施），「高校教師の社会意識と教育意識に関する調査」（小島秀夫：1996.1），「生活構造に関する調査研究」（盛山和夫：1979），「阪神・淡路大震災における住民の対応と災害情報の伝達に関する調査（芦屋市・宝塚市）」（廣井 脩：1995.3），「国民の意識に関する国際比較調査」（真鍋一史：1990.9）などである。

SORDは，日本社会学会員が主として行った社会調査に関する情報を収集しているが，その利用は社会学会員には限定されていない。学術的な目的であれば利用申請を行なうことができる。データの提供及び利用について，一度wwwサイトを訪問して検討してはいかがだろうか。

もう一つ，注目すべき新しい社会調査データサイトは，SSJデータ・アーカイブ(Social Science Japan Data Archive)である。SSJデータアーカイブは，「我が国で実施された統計調査，社会調査の調査個票データと調査方法等に関する情報を収集・保管し，学術目的での二次分析のために提供すること」（http://www.iss.u-tokyo.ac.jp/ ssjda/より引用）を目的に設置された。

SSJ データアーカイブの特徴は，その組織力である。連合総合生活開発研究所，生命保険文化センター，日本能率協会総合研究所，全国大学生活協同組合連合会，国民金融公庫総合研究所，社会経済生産性本部生産性研究所，中小企業総合研究機構，関西生産性本部，高年者雇用開発協会などからの寄贈データも含め，200 種以上のデータが提供されている。

利用できるのは，国内外の大学教員・大学院生及び海外の研究者であり，利用料は無料である。利用の手続きは以下のとおりだ。1)データベースで必要なデータを探す。2)調査個票データ利用申請書をダウンロードして必要事項を記入し，事務局へ郵送する。3)承認後，「調査個票データ利用承認の通知」が電子メール等で送られてくる。その後，データを記録する媒体を事務局に郵送する。4)「調査個票データ利用承認書」，データ媒体，コードブック及び関連資料を受けとる。5)分析をする。作成した論文等のコピーを事務局に提出する。6)期限終了後には，調査個票データを消去する，という順序になる。

問題点もある。利用申請書提出から調査データ入手までに，数ヶ月がかかる事だ。原則として利用期間は申請の日から1年間以内となっているため，実際に分析できる期間は長くはない。手続きすべてがオンラインですまない点，利用者資格の制約などの厳密な対応ぶりが，「官僚制組織における情報化の試み」の事例としても興味深い。

サービスの迅速性とデータ量から考えれば，オンラインの社会調査データベースの最高峰は，ICPSR（The Inter-university Consortium for Political and Social Research）だろう。世界最大の社会調査データの提供組織だ。URL は，http://www.icpsr.umich.edu/ 。米国国勢調査，GSS(General Social Survey)をはじめ，人口，社会，経済，教育，医療など多様な種類の調査データやコードブックを，このサイトからは，瞬時にFTP で入手できる。この利便性と有効性は，計り知れない。データ入手にかかる時間は，研究者の生産性と学問の発展にも大きく影響する。

原則として，ICPSR のサービスを利用するためには組織単位で ICPSR に加入し，費用を払わなければならない。このデータベースサービスの質と量を考慮すれば，有料制もやむをえまい。しかし根気よく調べていくと，我々一般市民でも，無料でダウンロードできる調査データやコードブックがあることがわかる。

次回はこのICPSRについて詳しくみてみよう。

関連学会等カレンダー

＜学会年次大会等＞

☆第27回数理社会学会大会

会　期：1999年3月13日（土）～14日（日）
会　場：慶應義塾大学三田キャンパス
北新館ホール(東京都港区三田2-15-45)
照会先：数理社会学会大会実行委員会
慶應義塾大学文学部織田輝哉研究室気付
TEL 03-3453-4521 内線3089
FAX 03-3798-7480

☆日本発達心理学会第10回大会

会　期：1999年3月27日(土)～29日(月)
会　場：大阪学院大学
(吹田市岸辺南2-36-1)
照会先：大会準備委員会事務局
〒564-8511　大阪学院大学
5号館8階10号室
TEL 06-381-8434(内線5432)
FAX 06-382-4363
E-mail:hattatsu@utc.osaka-gu.ac.jp
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/takashi/jsdp10/
http://wwwsoc.nacsis.or.jp/jsdp/

☆1999年度日本計量生物学会・応用統計学会合同年次大会

会　期：1999年5月6日(木) ～7日(金)
会　場：総評会館
東京都千代田区神田駿河台3-2-11
（ＪＲ御茶ノ水駅徒歩7分）
特別講演：
竹内　啓（明治学院大学）
「統計解析におけるランダム化の問題」（仮題）
特別セッション：
テーマ　「ダイオキシン類のリスク評価」
照会先：応用統計学会事務局
〒107-0062　港区南青山6-3-9　大和ビル２Ｆ
(財) 統計情報研究開発センター
TEL & FAX: 03-5467-0484

☆日本人間工学会第４０回大会

会　期：1999年5月15日(土) ～16日(日)
会　場：大同工業大学　大同校舎総評会館
名古屋市南区大同町2-21
(名鉄大同町下車，徒歩3分)
照会先：　大会事務局
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院・多元数理 宮尾研内
日本人間工学会第40回大会事務局
TEL/FAX：052-789-5572
E-mail: jes@med.nagoya-u.ac.jp
http://www.med.nagoya-u.ac.jp/koei/jes/

☆日本計算機統計学会第１３回大会

会　期：1999年5月20日(木)～21日(金)
会　場：兵庫大学　２号館
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 2301
ＪＲ山陽本線東加古川駅下車 徒歩15分
照会先：日本計算機統計学会第１３回大会事務局
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 2301
兵庫大学 経済情報学部
大会委員長 工藤 昭夫
E-Mail: hyogo13@jscs.or.jp
http://www.jscs.or.jp/taikai/taikai13/

☆第15回ファジィシステムシンポジウム

－日本ファジィ学会設立10周年記念大会－
（日本行動計量学会協賛予定）
会　期：1999年6月2日（水）～6月5日（土）
会　場：学園創立60周年記念館
（大阪工業大学大宮キャンパス内）
大阪市旭区中宮 5-16-29
プログラム：学会設立10周年記念特別講演他
1. Prof. L. A. Zadeh(University of California, Berkeley) 「ファジィ理論の誕生」
2. 長尾 真(京都大学 総長)「科学的説明の確実性について」
照会先：大会委員長　和多田　淳三
（大阪工業大学工学部）
〒 535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1
TEL: 06-6954-4327, FAX: 06-6952-6197
E-mail: watada@dim.oit.ac.jp
http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp /FSS99/
http://www-sip1.dj.kit.ac.jp/FSS99/FSS99.html

＜研究会・シンポジウム等＞

☆国際シンポジウム「非線形時系列モデルのひろがりとその応用」

日　時：1999年3月15日(月)
会　場：統計数理研究所　講堂
照会先：統計数理研究所予測制御系
樋口知之 E-mail:higuchi@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/~higuchi/COE/

☆第9回ソフトサイエンス・ワークショップ

(日本ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会)
会　期：1999年3月15日(月)～16日(火)
会　場：ハイブ長岡（長岡産業交流会館）
新潟県長岡市寺島町315番地
TEL 0258-27-8812,FAX 0258-27-8818
照会先：実行委員長 中村和男
〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1
長岡技術科学大学　計画・経営系
Tel.:0258-47-9357　Fax.:0258-47-9350,
E-mail:nakamura@kjs.nagaokaut.ac.jp
ソフトサイエンス研究会ホームページ：
http://www.senshu-u.ac.jp/~thc0456/nef/

☆統計数理研究所シンポジウム　「データ科学におけるデータマイニングと知識発見」

－Data Mining and Knowledge Discovery in Data Science －

（データマイニング手法と知識発見あるいは知識の組織化に関する研究をオーバービューすると共に，デ

ータ科学の観点から見て，あるいはその接点において，どのような方向に進むことが期待されるかを中心に広く議論する。）
会　期：1999年3月18日（木）～19日（金）
会　場：統計数理研究所　講堂
東京都港区南麻布4-6-7
構　成：
基調講演　Prof. Fionn Murtagh
(Dept. Computer Science, Queen's Univ)
招待講演 Prof. Tu Bao Ho
（北陸先端科学技術大学院大学）
一般セッション
照会先：FAX: 03-5421-8796
E-mail: data-mining@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/ISMSympo.html

☆平成10年度総研大国際シンポジウム 葉山セッション

［複雑系への戦略 ---構成と記述--- ］
主　催 総合研究大学院大学
会　期: 1999年3月10日(水)～3月12日(金)
会　場: 総合研究大学院大学葉山キャンパス
（神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村）
内 容:
・招待講演(テーマ・オーガナイザ)：同時通訳付
○シミュレーション：　抽象と具象・平田光司
○ダイナミクス：非線形現象と時系列解析・尾崎統
○認知とシンボル：「ことば」の創発と解読・伊庭幸人
・ポスターセッション
照会先: 総合研究大学院大学学務課研究協力係
〒240-019 神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村
TEL 0468-58-1539　Fax 0468-58-1541
E-mail: kenkyo@soken.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/complex/
○関連した一般講演会（東京，3月13日）
「複雑系への戦略---構成と記述---」
日　時：1999年3月13日(土)13:00～18:00
会　場：ヤマハホール
（東京都中央区銀座7-9-14
TEL 03-3572-3139）
内 容:（同時通訳付き）
・佐藤哲也（総研大・核融合研）：
21世紀を開くシミュレーション・サイエンス
・Yan Kagan (UCLA):
地震発生の自己相似性と予知可能性
・北川源四郎（総研大・統計数理研）:
統計的モデリングによる情報の抽出と知識発見
・Shimon Edelman (U Sussex, UK):
物体認識のメカニズム：　なぜ初めて見たものでも認識できるのか？
・金子邦彦（東大大学院）:
複雑系生命科学序説
照会先:総合研究大学院大学学務課研究協力係
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村
TEL　0468-58-1539　Fax 0468-58-1541
E-mail: kenkyo@soken.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/complex/

☆脳と意識に関する Tokyo '99 国際会議

Toward a Science of Consciousness, TOKYO 99
－Fundamental Approaches－
主　催：国際連合大学高等研究所他
会　期：1999年　5月25～28日
会　場：国連大学本部国際会議場
東京都渋谷区神宮前５丁目
概　要：脳におけるどのような機能及び素過程から意識は生じるのだろうか？　認知科学，哲学，情報科学，数学，物理学，生命科学などの観点による最新の研究成果を発表。著名な科学者と哲学者を北アメリカ，ヨーロッパ，国際連合から２０名，国内から９名を迎えて特別講演を開催する他，一般講演とポスター発表を予定。
照会先：TOKYO 99 事務局 日本ブランチ
〒700-8516 岡山市伊福町 2-16-9
ノートルダム清心女子大学情報理学研究所内
Tokyo '99 組織委員会事務局
TEL 086-255-5636 FAX 086-255-5090
E-mail:tokyo99@zoushoku.narc.affrc.go.jp
http://www.ias.unu.edu/activities/tokyo99.htm

☆「心理学の社会的役割（Ⅱ）--心理学資格の国資格化への諸問題」

主　催: 日本学術会議心理学研究連絡委員会
共　催: 日本心理学諸学会連合
日　時: 1999年4月9日(金)　13:00-17:00
会　場: 日本学術会議大会議室（地下鉄千代田線乃木坂下車青山霊園口徒歩１分）
(TEL:03-3405-6291)
内 容:
第１部
・東山紘久（京都大学）
臨床心理士について
・ 松浦　宏（大阪教育大学）
学校心理士について
・ 國分康孝（聖徳栄養短期大学）
認定カウンセラーについて
第２部　討論
質疑・総合討論

＜講習会・チュートリアル等＞

☆日本性格心理学会講習会

テーマ：「性格テストをつくる　－理論と実例－」
「性格テスト」の成り立ちの統計的基礎と「性格テスト」の開発の方法に関する講習会。

・対　象：日本性格心理学会会員，一般
・日　時:1999年3月13日(土)10:00～16:30
・講　師：
理論編（午前）：池田　央（立教大学）
実践編（午後）：成田健一（東京学芸大学）
・会　場：統計数理研究所　　講堂
東京都港区南麻布 4-6-7
（TEL）03-3446-1501(代)
地図 http://www.ism.ac.jp/gif/mapbw.gif
・参加費（当日払）:性格心理学会会員1000円
非会員　2000円
・申し込み方法：往復葉書に，氏名・住所・電話番号・所属・会員 or 非会員の区別・返送先宛名を　明記の上，下記宛先へ。
〒106-8569　統計数理研究所 前田忠彦 宛
・照会先：障害者職業総合センター 木島伸彦
FAX:043-297-9058
E-mail:nkijima@nivr.jaed.or.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jspp/index.html

公募情報

以下の公募は，応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等，研究者等の公募情報の詳細については，文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記 WEB ページも参照して下さい。
http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm
ただし，以下には，同ページに含まれない情報も掲載される場合があります。

☆東京学芸大学　教育学部

1. 学科　数学・情報科学科
2. 職名・人員　助教授又は講師　1名
3. 専攻分野　統計学
4. 担当予定科目　(1)統計学，データ解析などの関連科目　(2)数学専攻の学生に対する卒業研究
5. 採用予定日　1999年10月1日
6. 応募期限　1999年3月31日
7. 照会先　東京学芸大学 教育学部 数学・情報科学科　学科主任　高畑弘
〒184-850 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
Tel/Fax: 042-329-7472
E-mail:takahata@u-gakugei.ac.jp

☆愛媛大学　法文学部

1. 所属学科，大講座名　総合政策学科，マネジメント
2. 職名・人員　助教授または講師　1名
3. 担当授業科目　経営工学(経営情報または経営システムを含む)
4. 採用予定日 平成12年4月1日
5. 応募期限　平成11年4月9日
6. 照会先　愛媛大学法文学部総合政策学科
〒790-8577　松山市文京町3番
Tel 089-927-9226，927-9364

☆統計数理研究所

1. 所属　調査実験解析研究系　標本調査研究部門
2. 人員　助教授　1名
3. 研究分野等 社会調査法と解析法の研究
（社会調査の実践を通して，社会環境の変化に対応した実際的な社会調査法と，その調査法に対応した統計モデル等に基づく推測法を研究・開発することに意欲のある方）
4. 採用予定時期 平成11年7月1日以降の早い時期
5. 応募期限　平成11年4月14日（水）
6. 照会先　統計数理研究所　管理部庶務課人事係 〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
(TEL 03-5421-8707 ・ FAX 03-3443-3552)

☆福島大学　教育学部

1. 所属講座　学校教育
2. 採用人員　助教授又は講師　1名
3. 専攻分野　発達心理学
4. 担当授業科目　教育発達心理学，発達臨床心理学，発達心理学実験実習及び心理学関連科目，共通教育科目，大学院関連科目等
5. 採用予定日 平成11年10月1日
6. 応募期限　平成11年4月30日
7. 照会先　福島大学教育学部　庶務係
〒960-1206　福島市松川町浅川字直道2番
Tel 024-548-8103

お願い

各大学における研究活動の報告，全国の会員相互の情報交換を目的として，学会の会報に各大学院における修士論文の題名および博士論文の概要を掲載しております。今年度も，新修士論文，博士論文が数多く誕生したことと存じますので，それらの記事を会報に載せるべく，情報をお送りいただきたいと存じます。お寄せいただく情報は以下のとおりです。
（会報原稿送付先まで，できるだけ，e-mail でご連絡下さい）

＜修士論文＞
学位名（提出大学・研究科名，受理年月日）
論文著者名
論文題名
主査名

＜博士論文＞

学位名（提出大学・研究科名，受理年月日）
論文著者名
論文題名(和文のものは題名の英訳もつける)
主査名
論文要旨（300字以内）

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数

（1999年12月現在）

正会員	956人
準会員	47人
名誉会員	6人
賛助会員	20社

編集後記

3月末に恒例の行動計量学会セミナーが大阪にて開催されます。昨年は大変好評をいただいており，それを機会に日本行動計量学会に入会された方もいらっしゃいます。今回も主催者はますます充実したものにしようと準備されています。ぜひ，御出席ください。

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても，活用して下さい。会員の皆様からの御意見など，お待ちしております。また，次回には会員の方の指導された修士論文，博士論文の紹介を会報でしていきたいと思います。情報をお寄せ下さい。原稿の送り先は次の通りです。

会報原稿送付先

〒173-8605　東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

（会報作成担当： 山岡和枝・前田忠彦・山下智志）

☆☆☆ＷＥＢページ情報☆☆☆

日本行動計量学会 WEB ページ
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

日本行動計量学会第２７回大会
web ページ
http://www.f7.ems.okayama-u.ac.jp/~bsj99/